

令和3年度第2回ヤクシカWG合同会議における主な意見・助言等に対する今後の取組方向

参考資料2

課 題		主 な 意 見・助 言 等	関係機関	回 答 等
議事(1) ヤクシカの 生息状況等 について	①令和3年度ヤクシカの生息状況について	p9の図6で生息密度が示されており、平成25年の半減密度の線が引かれている。これは河川界ごとの半減値なので、(河川界によっては元々が大きく)必ずしも低密度を示しているわけではない。屋久島全体での半減値を各河川界に示し、どこでどれだけ減らしていくか計画していただきたい。(八代田) 推定生息密度が高いところ(河川界区分4や5、密度が40を超えているところ)が見えてきているので、密度が下がりが切っていない、あるいは反動的に上昇しているようなところに捕獲圧の重点を移していく必要がある。	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	屋久島全体の半減個体数密度を各河川界区分共通の目標とするとともに、密度推移等の各種モニタリングの結果等も参考に、重点的に捕獲すべき場所を念頭に置きながら、関係機関で連携して計画的な捕獲を進めてまいりたい。
	②高層湿原におけるヤクシカの生態調査	幼獣が大幅に減少したのは冬の積雪の影響があると考察されているが、繁殖特性からすると妊娠している個体は基本的に出産するのが一般的かと。積雪期間が長かったことと直接的に関係あるかどうかということは若干疑問である。	林野庁	撮影後半のデータも含めて、幼獣が大幅に減少しているのかどうかを再度確認し、総合的に考察する。令和4年度1回目の資料で提示する。
	③糞塊法の調査方法について	調査期間(9月～11月)が2カ月くらいある中で、9月は場所によってはかなり暖かくて糞塊の消失速度がかなり速いという懸念がある。調査前半と後半で糞の残り方に差が出てくる。今後のことを考えると、調査の前半と後半で観測される糞塊がどの程度あるかということ一度見ておくほうが良い。データの評価の仕方を少し考慮したほうが良い。	環境省	調査にあたっては、気温による糞塊の消失率を考慮し、高標高域のみ9月に実施し、その他は可能な限り時期を集中して実施し、解析時も標高や季節に応じた温度補正をかけ、結果を検証している。今後も、標高や気温等を考慮し調査・解析を行っていく。
議事(2) 捕獲等の被害防止対策について	④令和3年度有害鳥獣総捕獲頭数 ⑤令和3年度ヤクシカの捕獲状況 ⑥令和2年度 地域ごとのヤクシカ捕獲頭数	絶滅危惧植物や林床植生への回復状況といった生態系管理的な目標とのすり合わせも必要ではないか。絶滅危惧植物の量という点で、宮之浦流域より安房川流域のほうがはるかに希少種や絶滅危惧種が多いので、河川界区分2についてはもう少し捕獲圧を強めていただくと良い。	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	住宅地や観光利用に用いられる地域を多く含むことを考慮しつつ、関係機関等と調整・連携しながら対応を検討する。
議事(3) 森林生態系の管理目標及びその他植生モニタリング等	①森林生態系の管理目標に関する現状把握・評価について	p4の中間のデータを見ると、柵の外のほうが被度が高くなっている。シダ類が柵の中で減っているというのはシダ以外の他の植物、例えば低木が増えたために減ったのではないか。このデータを評価する上でシダの被度だけでなく柵の中の他の植物の被度や倒木などのデータを出してもらえると判断しやすい。	林野庁	特別な事情が考えられる場合は、判断しやすいようにデータを工夫する。
議事(4) 特定エリアの対策(西部地域)	①令和3年度屋久島西部地域におけるヤクシカ計画捕獲結果(2021年1月末時点)	令和2年と3年で何頭を捕獲したか。ブロックで頭数を取ったものが混ざって示されているように思うが、分けて出すほうがよいのではないかと。	環境省	・捕獲頭数は、令和2年度に24頭(オス19頭、メス5頭)、令和3年度に13頭(オス9頭、メス4頭)。 ・西部地域における捕獲頭数は個別に示していく。
	②シカ柵内の植生回復状況	柵内の植生回復状況を、手塚委員が川原と半山に設置している15m×30mの2つのシカの防除柵との比較を。(矢原) 川原と半山の防除柵は設置後10年以上経過したが、1年目は目立った変化はなく、最初はゆっくりした上がり方で、それからぐんと上がっていくような傾向だった。	環境省	今後の植生調査の手法や頻度の参考にさせていただく。

課 題		主 な意見・助言等	関係機関	回 答 等
議事(5) 今後のヤクシカ管理方針等について	②試験捕獲を含めた5年間のシャープシューティング体制における捕獲事業の評価と今後の方針について	今後、屋久島の中でSSという手法を、例えば規模やローテーションの仕方などについてはどういった展望で進めていくのか。	環境省	島での自走体制をつくることが第一。今現在は第一歩となる体制が構築できたところである。今後は中～高標高地域や世界遺産管理の核心となる場所への展開を目指す。安全かつ安定的に回せるということを第一に考えて、南西部で限定的にやっているような形を全体としていくつかの候補地をローテーションしながら進めていきたい。今回整理した視点について異論がなければ、各行政機関、関係者の皆さんと調整しながらできるところからしっかり進めていく。
		ローテーションを回していくのに、人手や予算についてどのくらいの人数と時間が必要かという労力を数値として算出できる状態である。予算要求などの際には、今までやってきたことの労力をきちんと数値化して積極的に予算獲得に向けて働きかけていただきたい。費用対効果の算出の時に単純に1頭当たりのコストだけで議論が進まないように。リスクが高い場所でリスク管理しながら実施する場合には、1頭当たりの単価は高くなって当たり前ということがある。	環境省	関係機関で調整の上、検討していく。
		シャープシューティング事業(以下、SS)に関連して、従来のわな猟、柵による捕獲、そしてSSという3つについて費用対効果を比較すると、どれが一番効率的かということがはっきり分かる。試算でいいので次の会議で出していきたい。	環境省 林野庁 鹿児島県 屋久島町	
		SSありきということではなく、いろいろな方法をミックスする必要がある。SSはこれまでの実績があり、森林施業計画等と連携した実施が重要。糞粒調査で一湊林道上部という地点は高密度で減らない。ここは森林施業をしている場所だからである。施業した後が餌場になっていて、捕獲はされているがなかなか減少しない。森林施業の計画があるところにSSの計画を連携してSSを活用していったらどうか。	環境省 林野庁 鹿児島県	SSの実施箇所、時期については、ご意見も参考にしつつ、保全対象のほか、道路状況や周辺の森林施業等の諸条件を踏まえて検討していく。
		SSについては西部地区には果樹園が多いので時期を考えてほしい。11月はミカンの収穫時期が近くなってサルの被害が増えるため、有害鳥獣の捕獲依頼も増える。同じ時期に誘引のために餌をまいたりすると、猟犬がシカの臭いのするほうに行つて邪魔をするということもあって、果樹園から今は駆除をしないでほしいという声が出ることがある。そういう意味で時期と場所の検討をお願いしたい。	環境省	
議事(6) その他	情報提供資料1 屋久島の植物とヤクシカに関する研究の進展	特になし	—	—
	情報提供資料2 国立公園のシカ管理を考える ―予防原則を超えて―	前回会議での調査報告について、ナチュラル・レギュレーションの考え方が頓挫している部分もある。昨年の報道ではナチュラル・レギュレーションがうまくいっていると思えなくもないような書き方がされていた側面があり、若干ミスリードではないかという気もある。環境省も含めて正確な情報を提供してほしい。ナチュラル・レギュレーションが起きているかどうかは、この委員会の場で議論すべきだが、それが最大の論点ではない。自然植生を維持するためにどの密度を維持すべきかを考えるべき。	環境省	今後の対策や情報発信の参考にさせていただく。
	情報提供資料3 くくり罠による小林式誘引捕獲法について	特になし	—	—